

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
17	村づくり委員会事業	D	一昨年、昨年度の助成金申請は各7団体30万円程度であった。かつては毎年10団体以上、予算も100万円以上利用されていたこともあり、全体として縮小傾向がみられる。 村づくりをすすめる住民活動を支える阿智村独自の事業として、縮小傾向にあることは大変残念である。 平成28年頃から、1団体に対して年間助成額上限10万円とされ、印刷機の使用に関しても使用料金が発生するなど運用規定が厳しくなっていると感じる。 各委員会から出される事業費の金銭面のみの補助事業となっているように感じる。活動のサポートや助言など実務的な支援があまり感じられない。	住民が地域や村の課題解決に向けて主体となって取り組むことを目的としているが、これからの地域づくりを支える人材育成事業として捉え、協活課はもちろん、地域課題によって担当職員が関わることで、住民とともに職員もスキルアップしながら課題解決に向かう事業としたい。 公民館事業との連携などでこの事業の認知度を高め、活用への積極的サポートを行って事業の拡充を期待したい。 役場印刷機使用について、村づくり委員会活動分については使用を認められたい。また、以前認められていた託児費用など、活動において必要と考える費用について、住民からの要望を広く受け止めた上で補助対象項目を広げられたい。
21	全村博物館構想事業	A	議会が早期に制定を求めていた条例が整えられ、関連要綱との整合もなされた。その際、「構想」をつけ続けるかどうかの議論を企画委員会の中でなされたところ、確かな一歩は踏み出すが、大きな「構想」の前では謙虚でいたく、現段階では「構想」ははずさなくていいのではないかという結論であったと聞き、この事業にかける心意気を感じた。 法人設立が具体的に進みだしている。確かな形となってこの事業が進んでいる手応えを感じる。	この事業が法人が主体となって動き始めるようになる見通しだが、観光サイド、また文化財保護サイドとの連携は不可欠である。法人の役員の中で配慮がなされているが、各組織との理解、協力をプロデュースしてゆくのが村の大切な役割となろう。大切にされたい。 当面、駒場のまちづくりが事業の中心になろうが、駒場だけの「全村博」ではない。マルチタスクで各地で同じ熱量、質量で発展させることは困難であることは承知するが、将来の全村展開を常にイメージして事業を展開するよう指導されたい。 また、そうした観点から、将来的に「園原ビジターセンター」と「熊谷元一写真童画記念館」を協会で運営することの可能性を検討されてはどうか。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
26	村公式ホームページ事業	B	ホームページ利用のデータの集計など細かな点まで配慮されていることは担当者の配慮気配り等より利用しやすくなるための努力は評価したいと思います。CATV、スマホアプリ阿智村暮らしの情報とのリンクも出来ていて評価したいと思います	新年度に向けては利用者が閲覧滞在時間が短くても、ページタイトルが易見やすいサイト、バナー等タイトルビューワー等の追加等望みます
28	財政管理運営業務	B	財政資料を担当者より提供していただきました、運営的にはコロナの関係により通年の様な財政状況ではなく、この状態が普通の状態と考えるのかコロナ禍の経済状況をどの様に予測して財政運営に当たるか難しい選択に迫られるのではないかと、基幹産業である観光産業が今のところインバウンド重視ではなく今ある自然を財産としているが基盤産業である農業については高齢化は進むばかりで5年後の阿智村農業がどの様な形になっているのか、実情をシビアに分析していかなくてはならない。	類似団体との比較でも観光産業への比率が多いことが分かる、その投資が村民に還元されていることの実感が感じられる財政運営の必要がある。村民一人当たりのコストも高齢化により増加することは避けられないことである。施設が有る限り維持補修費は必要経費になるため困る以前に手をかけていく必要がある。
31	公用車管理業務	C	公用車運行前点検表、運転日誌月計表、公用車運転日誌を利用してきちんと管理されている。 今年度新たに酒気帯びの有無の公用車使用確認表を利用して管理されている。 車両の不具合の早期発見による修繕料の抑制及び交通事故等のリスクの回避、安全性の確保がされている。 車両管理者を中心に「マイカーハンドブック」等を使用した適切な維持管理がされている。	点検表等手書きですが、ペーパーレス化、履歴の短縮等、タブレットを利用したらどうか。 酒気帯びの有無は今は目視ですが、10月から検知器になりますが早い取り組みをしてはどうか。 業務上毎年同じ内容の事業計画ですが新たな具体的取組をしたらどうか。 人身事故はありませんでしたが、物損が8件発生しましたが、ちょっとした不注意によるものが数件ありますので注意のこと。自車損害額471128円 EV車導入の研究を要望する。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
46	保育事業の内、 未満児保育事業	D	現在村内では、あふち保育園で39人。伍和で5人。智里東で5人。浪合で4人。の未満児保育を実施しており、村内未満児保育該当者の約40%近くの幼児が未満児保育を受けている。 しかし、母親が次の子供を妊娠し育児休業を取得した場合、今まで未満児保育を受けていた子供が未満児保育を受けられない状況となっている事実があり、「母親の育児に対する過大な負担となる」「育児休業が明ければ再び預かってくれるのに、子供が友達関係を築く成長過程で可哀そうだ」という声を多く重く聞く。 飯田市等他市町村では育児休業中も未満児を引き続き保育している実態がある様だ。	人口増・若者定住・子育て支援を目指す村であるなら、他市町村以上の未満児保育支援を行わなければ若者が阿智村で暮らそうとは思わず、人口増とはならない。村づくりの目標は「阿智村で子育てをしてみたい」という夢を抱く若者を多く村に取り込む事ではないか。 村長の振っている旗と、職員の考え方に大きな乖離がある？ 乳児を抱える母親の育児ストレスをなくし、未満児保育で通園している園児の精神的状況を考慮する時、『育児休業中も未満児保育を実施してほしい』という母親の声は痛いほどよくわかる。 これら保護者の声に耳を傾け、おおらかで村民に寄り添った温かい保育行政であってほしい。
64	地域支援事業(認知症総合支援事業)	C	認知症は初期の段階で同居の家族が気づいても周りは気づきにくい。 その段階で、診断の相談ができる場所の機会を設けてくれてますが、認知症をわずらっている方はプライドも高く、家族が支援を希望しても本人が嫌がるという実態があり、難しい取り組みだと感じる。	コロナ禍において、人を集めることが難しくなっているが、わいわいカフェの取り組みを、認定がついてなくてもデイサービスの利用ができるようケアの拡大ができると良い。 問題行動を起こす前の物忘れ、妄想、幻覚症状の段階では、ただ見守ることしかできない家族をサポートするため、交流の機会を設けられると励みになる思う。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
77	精神保健	C	精神デイケア(はなももハウス)を看護師、保健師も関わりながら包括支援で利用者のケアを行っている。 登録者7名のうち、令和3年度は社会参加できなかった方が1名毎週参加できるようになったことは、評価するものだと感じる。 評価もBに近いCだと思う。	なかなか表に現れない上に地道な活動だが、利用者と家族には大切なサポートだと感じる。 引き続き取り組んで頂き、コロナ禍ではあるが、「ゲートキーパー」(自殺のサインに気づき適切な対応を図ることができる)の養成も積極的に行い、悩んでいる人に寄り添い、関わりを通じて孤独、孤立を防ぐ支援をお願いしたい。
84	昼神温泉新時代推進事業	C	①H7：昼神温泉旅館組合報告による「昼神温泉マスタープラン」は進展せず、その後、昼神温泉エリアサポートによる温泉郷全体の経営と発展をめざしての取り組みは、誘客範囲の拡大で成果はあるものの、将来に向けての温泉整備に踏み込むまでに至っていない。 リニア新時代を迎える具体的な行動として、昼神温泉将来構想検討委員会による答申、村と昼神観光局によるパブリックコメントの実施と「昼神温泉リニア新時代構想」を基に、「昼神温泉リニア新時代戦略等推進委員会・幹事会」が温泉整備について、ゴールを見定めた熟議を進めている。 ②パブリックコメントの分析が詳細に示されているため、村民の想いが構想の基点となっている。 ③令和3年度は、「昼神温泉リニア新時代戦略等推進幹事会」を5回実施し、主要な課題を絞り込み熟議すべき論点がはっきりしてきている。	①コロナ禍の影響でR2年度「シンポジウム」R3年度「昼神温泉新時代フォーラム」を実施できていない。村民にとって貴重な情報が空白となる2年間になっている。R4年度出湯50周年記念事業や、パブリックコメント後の経過報告や村民の理解向上の支援となる学習の機会はコロナ禍だからこそ方法を考え実施されたい。 ②昼神温泉リニア新時代戦略は、観光事業の視点が強かったり、ハコモノの配置が論点となったりしがちだが、50年後も村民の憩える場としての伝統を備えた温泉の視点を基点として検討されたい。ワーケーション等は、不易なものか流行か熟考されたい。 ③村所管施設・村有地を対象に進めているが、構想に関して主要な論点は、商工観光課だけではなく、施設の利用目的と内容に関わるすべての課が関わる必要がある。課長会を機能させ、各課の将来にわたる課題を先送りせず解決するために横断的視点から集約化と効率化できるチャンスとしてとらえ検討されたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
85	花桃まつり・花桃管理	C	2年ぶりに花桃まつりが行われたことについては、何よりよかった。花桃管理も全村に広がったことについては評価したい。この先も全村に広がり波及効果をもたらすことが望ましい。	村主催の花桃まつりについては様々な意見を聞く。実行員会が主体で村が応援するのが本来の形という意見のあることは忘れずに行ってゆくべきと感じる。 村主体で役場職員にどうしても負担がかかりがちである。そのことで行政本来やるべき事に力が入らないことの無いようにと願う。 公金でないものを職員が扱う事に問題は無いのかと、疑問に思う。
85	花桃まつり・花桃管理	C	令和3年度は、コロナウイルスの感染対策を行いながらイベントを行った。来場者への検温、売店の移動、歩行者の一方通行等、実行委員会や担当課の対応は評価される。 2年度より村が主体となって実行委員会を組織し、重要な観光資源としての花桃祭りに取り組む体制となった。期間中に多くの観光客を向かえること、コロナ対策を行う中での祭りの持ち方等を踏まえると、村主体とする体制が必要と考える。 また、村全体の花桃という位置づけを目指し、村内の花桃を管理している団体や関係者を集めて、花桃管理検討委員会を開催したことは、今後の管理や支援について検討する良い取り組みと評価する。	昨年も提言したが、地元の管理委員会との連携の中で、会場内の歩行者の動線の確保、将来を見越した会場整備について、現地踏査を行い検討されたい。 歩道の確保安全性を考え、県道富士見台高原線の一部U字溝化と溝蓋の設置。弁天橋への歩道設置。神橋から恩出し間の村道について、舗装の拡幅、溝蓋の設置と道路補修が必要。県への要望、また村道については、村としての横断的な対応として担当課へ依頼されたい。 中心地のトイレについて、女性用便器が少ないため、長蛇の列ができてしまう。将来を見すえての増築も検討されたい。 コロナ禍の中、駐車場の制限をする中で行ったが、駐車できる数が減ることにより車の渋滞が心配される。車の渋滞が地元住民への一番の影響があることを踏まえ、土日や祝日は村民グランドの活用が必要である。 村内全体の花桃の維持管理のため、管理検討委員会は定期的な開催を要望する。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
94	農地環境保全	B	中山間直接支払及び多面的機能支払においてR2、3年度実績比較で共に集落、活動組織が2件増加し面積も乗じて増加であることはよく取組まれておられ継続を期待する。 環境保全型農業直接支払においては面積約3分の1（225ha）減少している。減少要因をしっかりと把握されたい。 人口減少のなか農地環境保全事業を維持するには大変だが必要不可欠です。課題に「団体構成員の高齢化が進み、活動期間終了後に継続できるか不安がある。」と記載があるが、このことは最も重要である。若返りの施策を期待する。	中山間直接支払、多面的機能支払、環境保全型農業直接支払の何れも申請の手続き等が繁雑でありどうしても行政担当者の支援が必要です。担当者はよく理解し事業継続の手助けを心がけられたい。 行政は次世代への農地環境保全取り組みとして各組織へ人材の若返りの推奨と実務支援は国・県のパイプ役を担って、自身の村は住民自身が守る意識づけに力を注ぎ継続に繋げられたい。 中山間直接支払、多面的機能支払は農地環境保全に有効な事業であるが全集落に周知が行き届いていない感がある。集落支援員を通じて積極的に推奨し取り組まれたい。
96	遊休荒廃地対策	B	基盤産業の農業の衰退は村全体の大きな問題として農業委員を中心に取り組んで頂いている。しかしながら荒廃地は増加の傾向である。 ウクライナ危機のもとフェーズが変わってきている。穀物高、まさに耕作放棄地活用の契機とし自給率を高める為にも、今ある取り組みを住民にもっと知らしめる必要がある。	大規模農家、販売を目的とする農家への新たな支援も加わり良いことだけれど、村の農業を守っている小規模農家への支援、そば、大豆、コメのみならず小麦や小豆等、また伝統野菜へも補助していくべきと思う。農業に係わるすべての人々の底上げができるような方策が荒廃地を減らしていくのではないかな。支援事業以前の事に力を入れてこそその支援事業と思う。関心をもってもらえる工夫が欲しい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
98	村単土地改良整備	C	事業コストの見込み額4,520（千円）で令和2年度～4年度まで全く同額であるが、災害以外、計画箇所は検討されていないことになるが、これでよいのか。 3年度の実績額は計画の約3倍で災害が多発し迅速な対応と推察するが、次年度への繰越や再度の工事の進捗状況がわからない。 評価の課題において「井水補修等大きな改修工事等行いたい相談がありますが、補助上限が30万円である為、もう少し大きな工事対象の補助の検討の必要がある。」記載が3年間とも全く同じ課題である。課題をレピートされるだけで改善策の検討経過がうかがえない。	昭和時代の大規模圃場整備事業から大半の地区で40～50年以上経過しており老朽化による修繕や維持管理が必要な個所が数多くある。地区からの要望を待つことなく調査をし年間計画に盛り込み対処されたい。 「補助上限が30万円である為、もう少し大きな工事対象の補助の検討の必要がある。」との問題意識を持たれているのであれば、そこは住民に則した提案を担当課は村と掛け合うべきである。 3年間分の内容が数字以外で全てが同内容である。計画は全て発生主義なのか。新規、拡充事業ではないが住民はこの事業に多くの要望と期待をしている。記載ある評価の課題提起を筆頭に改善・工夫を検討されたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
100	森林資源活用推進事業	B	①森林資源利活用推進事業を、NPOあち森に業務委託し（700万円）林地残材、支障木伐採材などの未利用資源を村内のバイオマスエネルギーとして循環させるしくみを構築しつつある。 ②村とNPOの協働による薪の青空市場が定期的に開催され、未利用資源の販路拡大が思考されている。 ③アグロフォレストリー事業との連携では、新たなハウス栽培（脱炭素）へのバイオマスエネルギー供給面での実施が可能になっている。 ④森林整備事業の里山整備利用地域の活動との連携も視野に入れながら、森林資源循環システム構築を研究が進められている。	①阿智村森林計画のすべての関連事業において、林業に関わる組織、人材が不足している。また、今後の森林経営管理制度の実施に当たり、約6割から7割に及ぶ村への管理委託も推測される中、村からの委託に応えられる林業経営者確保が喫緊の課題である。 村では、自発的に意欲を持って実践しているNPOあち森や村内5地区に及ぶ里山整備利用地域がある。今後二度と無いチャンスとして、この組織と人材を支援し育てることにより、林業に携わる後継者を育てる起点とされたい。 ②阿智村森林整備総合将来構想は、官公民が共に連携して作成する過程に重要な内容が含まれている。将来構想策定の過程イコール将来構想ネットワークとしてを重視したい。 ③未利用資源の搬出を促す制度を、早期具体化をされたい。 ④森林資源循環システムを動かすために、需要側となる施設・販路のしくみを関係事業連携で早期に構築されたい。 ⑤林業の拠点、森林資源循環システムの拠点としての薪ステーション建設を早期に実現されたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
104	商工業振興事業	C	令和3年度 事業等計画書、歳出の内訳は金額計画となっているが、令和3年度 事業評価 実績・効果では件数評価となっている。評価基準は同一項目表現でないと第三者が評価できない。 2、③評価 課題について、商工業の振興の為、地域内の経済循環が求められる。また、企業誘致が可能な環境整備が必要で有ると分析されているが、実績・効果から、どう読み取ったのか現象説明が必要	振興条例の目的が、商工経営者の努力に期待し、商工業者従業者の経済的、社会的地位の向上、もって村民福祉の向上に資するとなっており、支援事業の色合いが濃い事業ではあるが、補助金（Ex：商工会補助金 12,000千円）を出す以上は、振興事業への投資活用費か確認する義務を果たす。 2、前年度の課題、計画書（前年度からの改善工夫内容等）が今年度の具体的取組に反映すべきで有る。（Ex：工業用地確保に向けた候補地の検討等を行う計画に対し、次年度の具体的取組に項目記載がない、又実績・効果記載もなし。） 3、評価基準は、誰でもが評価できる基準にする、 4、実績・効果又課題判定について、判定基準を明確にすること 5、行政の受け身体質から、積極体質への脱却を図るべきである。村内企業からの情報は懇談会等で得ているとの説明を頂くが、情報を精査し実行に至っていない。環境整備（Ex：事業拡張に伴う土地取得、人材育成等）等積極的に行うべきで有る。 6、阿智村組織規則第3条（係りの設置及び事務分掌）商工事業の企画、立案及び総合調整に関することを実行する。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
104	商工業振興事業のうち、住宅リホーム事業	C	平成20年のリーマンショックにより日本経済が大きな打撃を受ける中で、村の職人さんの仕事確保のために立ち上げられた制度で、平成23年から昨年度までおよそ10年間に490件近い件数のリフォームがなされた。これは村内全世帯数の20%弱である。 この制度が立ち上がった頃は年間75戸程のリフォーム申請があったが近年では25戸程と先細りしている。 また、昨年度からは商品券での補助受給者に1,000円のプレミアムを付与し地域経済の活性化を狙ったがこれを希望した方は全申請者27件中8件と、さほど効果はなかった。と思う。	村の職人さんがそのお仕事を維持し、村民の皆様要望に即座に答えて戴ける村を目指す必要がありこの事業はそういう意味で必要な施策であり、仮に利用者が少なくても維持していくに値する施策と思う。 しかし、補助金を商品券で付与するという行為は昨年度から始められた事業であるが、商品券の有効期限も半年という使い勝手の悪さも手伝い利用率は30%に留まっている。 なぜ商品券付与は人気がないのか原因を検証し、給付の方法を検討する必要がある。
106	まちづくり整備事業	C	実績・効果欄表現で、何々検討・調整となっているが、検討をしたのか・しなかったのか、途中なのか、理解しやすい表現にすべき。 2、令和3年度 運動公園整備事業計画書では検討委員会による検討→住民説明→議会基本設計決定目標となっているが、令和2年度、3年度、具体的取組内容同一、実績・効果では検討委員会による検討となっている。財源に裏付けられた基本設計を構築すべきである。 3、具体的取組のデータ収集による課題の検討については、コロナ禍で収集委託を中止したのでは？	具体的取組で個々のテーマを列記することも必要であるが、10年後、20年後の村のあるべき姿を常に計画の柱とし、その柱から個別テーマに展開すべきであり、村民に見える化を行うべきである。 2、6次総のまちづくり計画において、・公共交通の充実・役場周辺計画・三遠南信道開通将来ビジョン等の取組みを行い、又は取組んでいる状況を村民に見える化すべきである。 3、阿智村組織規則、第3条（係りの設置及び事務分掌）内容、産業振興に関する企画、立案及び調整に関することを実行する

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
107	家庭ごみ等収集 処理事業	B	家庭ごみの分別、収集処理を行った。 生活環境の保全、公衆衛生の向上を図り、資源の再利用を進めた。 家庭用家電無料回収の継続実施を行っている。 環境省の2020年度実績の一般廃棄物処理実態調査の結果によると、阿智村は、事業系のごみが多いため、飯伊14市町村の中で1人1日当たりの排出量が最も多い。また、リサイクル率も低い水準にある。排出量の削減と、リサイクル率の向上が、今後の取り組みとして重要と考える。	家庭ごみ（一般廃棄物）の排出量の低減とリサイクル率向上のための取組を協議されたい。 プラスチックと賢く付き合う「信州プラスチックスマート運動」の取組みを推進し、ごみの減量を進められたい。併せて、現在焼却されている硬質プラスチック製品の回収や処理の方法を検討し、令和5年度より実施されたい。 家庭ごみ自体が増加する中、高齢者の皆様や障がいをお持ちの方等ごみ出しが困難な方に対し、他の課と連携しながら、現状より充実した支援を検討していただきたい。
110	下水道事業	B	維持管理業務を専門的な知識と技術を持つ業者に委託し、農集排の汚水処理施設と一元化した管理をすることで、安定的な水処理を行なわれている。 下水への接続率向上のため、村広報誌に、住宅リフォーム助成制度が排水設備工事に利用できる記事を掲載し、呼びかけによる、接続率向上の努力はしている。 令和4年度から、公営企業会計に移行するための、移行業務等は順調に完了した。	環境保全のため、今後も安定的な水処理を行っていただきたい。 下水道への接続率向上に向けて、一軒でも多くの繋ぎ込みを目指し、引き続き啓発されたい。 令和4年度からは、公営企業会計へ移行する。経営・資産等を正確に把握することにより、経営管理の向上と経営基盤を強化されたい。 耐用年数を超える機器の計画的な更新のためのストックマネジメント計画を推進されたい。 下水道事業の財政状況を見る中で、料金改定を考える際は、時期・経済状況を踏まえ広く意見を聞き対応を検討されたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
120	防災対策事業 (福祉避難所と福祉施設の観点から)	D	〈福祉避難所について〉 福祉避難所として各施設と協定が結ばれているが、実際の利用対象者や受入れ可能な人数など具体的なものが想定されていない。支援が必要な方の個別避難計画は民生課が担当し、避難所は保健センターと飯田病院阿智診療所を想定している。これについては民生課と防災担当係で情報共有されていない。個人情報の取扱いもあるが連携は必要と感じる。 福祉避難所へ非常電源の設置、防災用品の配置はなく、当該施設のものを使用した場合に補填することになっているが現状で良いのか。 通常の利用者に加え、災害時の避難者受入が可能か、協定締結時に各施設から人的不足が指摘されているが対応策は検討されていない。 〈福祉施設の災害時対応について〉 災害時に福祉施設からの避難が必要となる場合がある。このような場合は地域との連携が必要だと感じるが、連携できている施設はあまりない。療護園では地元消防団、自治会と協力して避難訓練を実施しているが、このような取組は他施設でも必要だと感じる。	〈福祉避難所について〉 福祉避難所の協定を結んだ令和元年度以降、各施設との話し合いが実施されていないため、協定を結んだだけになっている。災害時に避難所として機能できるよう、利用対象者を把握した上で具体的な運用方法を示されたい。 〈福祉施設の災害時対応について〉 各施設の避難計画を地元（自治会や消防団）と共有し、避難訓練を行うなど地域で支えることが必要ではないか。また、各地区の防災計画に盛り込むことも検討されたい。 〈あわせて〉 行政、施設管理者、地域住民、利用者、男性、女性など、様々な視点を持って、福祉避難所のあり方を検討する必要性を感じる。今年度行われる「健康福祉施設のあり方」審議会にて、防災の観点からも検討し、行政と連携して住民の安心安全に繋がられたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
120	防災対策事業	C	中関、下清内路、上清内路、智里西、浪合地区に関しては、防災マニュアル作成し4月に地区配布をして、組内説明始めている。 大規模地震に備え住宅耐震化を支援することにより、住宅の倒壊を防ぐことがされている。 避難所を開設した際の備品を整備することにより、住民の安心につながっている。 防災備蓄品（非常食など）の購入 大規模災害に備えるため企業や自治体との相互協定の締結がされている。 防災行政無線操作卓更新による情報伝達の確実性の向上がされている。	早急に上中関、駒場、伍和、智里東地区の防災マニュアルを作成のこと。特区として昼神温泉専用の防災マニュアル作成を検討されたい。 非常食については、各家庭で水、乾パン等一人3日分の確保をお願いするよう常に周知されたい。 防災備蓄品について、上中関、中関は阿智高校が近いが、上中関自治会館、中関高齢者生きがいセンターにも備蓄分散を検討されたい。 大規模災害に備えるため企業や自治体との相互協定について地元のコンビニとの相互協定を検討されたい。 災害時、緊急時等、職員同士の連絡網の確認されたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
121	消防団事業	B	住民の青年層で組織する消防団は、一朝有事の際の支えとして、また予防消防活動等、安全安心を守る住民にとっての重要な組織である。 また、同年代の青年が活動を通じてまとまって行く姿は、他の活動ではなかなかできない、村づくりの観点からも貴重な組織ともいえる。 このように大事な組織を守ってゆく中で、大きな課題として団員数の減少がある。年齢等対象者が減ってきている現実もあるが、村内に居住していても入団されない方もいる。 入団したくない理由の一つにポンプ操法大会への違和感を上げる方もいると聞く。3年度には、現団員の家族から操法大会の見直しの検討の要望書も出されている。操法大会には賛否両論あるが、いざという時の機器の取り扱い、現場での指示や統制のための訓練という一面を考えると、大事な訓練ともいえる。 他の訓練も含め、団の中では工夫しながら内容についても少しずつ変更してきている現状もあり、その点は評価される。 消防団員は各地域の中でも、今後の地域づくりの中心となってゆく人材育成にもつながる。団員確保のため行政としても積極的な対策を取られたい。	ポンプ付き積載車等、機器の整備は計画的に進められているが、3年度に発生した山火事の時の反省を踏まえ、山火事の際に必要な機器の整備を検討されたい。（運搬車等） また初期消火の意味から、水源については、各分団の日常活動の中で地域状況を把握され、有事の際には、地元団員が的確な判断が出来る体制づくりを確立されたい。 操法大会のあり方については、団の内部でも検討されているようであり判断は委ねるが、より現実的という水出し操法は、訓練としては良いと思うが競技大会として位置づけることには疑問を感じる。発表会としたらどうか。 練習回数や内容等は各分団に任せ、家族への負担軽減につなげたい。尚、家族への負担については団員個々の問題もあり、家庭内での対応をお願いする部分もあるのではないかな。操法大会は郡や県の上部組織においても課題として出てきているようであり、しっかり検討して頂きたい。 消防団活動に対する外部の意見を聞くための検討委員会を開催されたい。 団員確保については、人口減少と同様難しい部分もあるが、内容を理解して頂き、毎年、の退団者数の確保を目指し、現状維持を目標に取り組んで頂きたい。

令和3年度事業 事務事業評価書

評価:A・・・極めて良好に実施 B・・・適切に実施されている C・・・一部改善の余地あり D・・・改善を要する

ページ	事業名	評価ランク	議 会 評 価	提 言
123	リニア新幹線対策事業	C	崩落土砂流出危険地区について、村では当初「知らなかった」という点、ならびに本件における県からの情報の取り扱いについてはたいへん残念であった。情報は村民にできるだけ公開していくという時勢の中である。猛省していただきたい。 一方、クララ沢の盛り土の安全性検証に動かれていることは、あり方について一部意見の相違もあるが、評価できる。	リニア整備対策室が組織され期待をするところ。清内路に精通し、各組織、住民の声を適切に拾える体制を持ち、今後、佳境をむかえる盛土置き場の問題に適切に対応できるよう準備していただきたい。 対策委員会幹事会は精力的に会議をされているが、全体会が少なく状況がわかりにくいという声を聞く。コロナ禍で全体会の開催が難しい事情は理解できるが、村として、幹事会の状況などの情報提供を委員のみなさんに適宜行うなど取り組まれてはいかがか。